

事業概要書

事業名	妊娠期から家族を支える子育て支援と地域ではぐくむ乳幼児の防災意識啓発事業				
開始日	2022年5月17日	終了日	2023年4月30日	日数	340日
団体名 (カウンターパート)	特定非営利活動法人 こそだてシップ				
担当者名	大村恵世	事務局スタッフ人数	4人		

事業費総額(税込)	5,829,400円
CF事業枠	5,800,000円
その他資金	29,400円

事業目的	<p>第1期で実施した「マタニティスクール」「ベビーサロン」、コミュニティFMを活用したラジオによる情報発信「ままラジ」を充実させると共に、新たに産後ケアや赤ちゃんとの関わり方を学ぶ機会を提供、そして防災講話や被災体験の記録を残し公開することを通じ、東日本大震災の教訓を活かした「乳幼児の防災」を地域に定着させる。</p>
事業全体の概要	<p>●こそだてシップとは</p> <p>2001年5月地元の助産師有志で、大船渡市内に産婦～未就学児対象の「育児相談室」を開設。活動中の2011年3月11日、東日本大震災で地域は被災し壊滅した。メンバー5人中4人も被災したが、同年5月に被災から逃れた商業施設の一角で「育児相談室」を再開。被災地の母子「駆け込み寺」となった。同年10月、行き場のなくなった母子対象に、大船渡市内と陸前高田市内に「ママサロン」を開設。子どもを抱え身動きできない母子の為に、同年11月～被災地巡回「赤ちゃん訪問」を開始した(3年3ヶ月継続)。このような活動は、県内外の助産師有志の協力で実現できた。2013年NPO法人認証。</p> <p>その後、断続的に母子救済を行政に要望し2015年11月、大船渡市業務委託「大船渡市子育て支援センター・すくすくルーム」の開設に至り、その中で「マタニティサロン」「ママサロン」を自主開催。2020年10月からは、「産後ケア・ゆったり」の業務委託も受けて実施中である。</p> <p>又、2016年7月～現在まで、大震災支援の体験と教訓から、「乳幼児の防災」事業にも取り組んでいる。大震災前は、地域で発信力の弱い「住民弱者」の妊産婦や母子支援を行い、東日本大震災後は更に、「災害弱者」になった妊婦や子育て母子の、声なき声を拾いながら、当法人はまちの復興と共に歩んできた。</p> <p>(http://kosodateship.org/)</p> <p>●取り組むべき課題</p> <p>■課題① 妊娠期の情報が少ない</p>

【現状】

当地域の年間出生数はおよそ 300 人強。しかし出産を扱う病院が県立大船渡病院一軒しかなく、周辺地域（陸前高田市・釜石市・住田町・その他周辺のハイリスク妊婦）の出産も取り扱っているため、常に大変混雑している。病院で行っていた妊娠期の両親学級はコロナウィルスの影響で休止中。また、市の保健センターで行っている両親学級は年 3 回のみであり、沐浴指導など必要な学びが提供されていない。妊婦やそのご家族が出産や育児について学ぶ機会がなく、不安や疑問が解消されないまま出産することは、その後の育児に大きな影響を与え、産後うつや虐待につながる恐れもある。公的機関は主にハイリスク妊産婦ケアに関わり、一般母子の細やかな育児支援までは限界がある。

【第 1 期の取り組みと成果】

当法人は妊婦とそのご家族を対象に「マタニティスクール」を開催して、沐浴などの指導を行い、助産師とゆったりお話をする場を提供してきた。妊婦のみではなく夫婦、家族で参加することで、出産や育児についての学びを共有できている。家族で出産育児について学ぶことが妊婦の安心感を生み、父親の父性を育み、その後の育児をスムーズにしており、産後うつの防止に役立っていると感じている。また、マタニティスクールの参加者が出産後すくすくルームを利用するなど、産後の育児支援に繋がっている。

【課題】

現在のマタニティスクールは月 1 回 2 時間のみの開催で時間が足りず、沐浴指導にほとんどの時間を割いてしまう。授乳や産前産後の身体の変化についてなど、より多くの必要な情報や学びの場を提供し、産後うつにつながる不安の軽減をしたいと感じている。また授乳に関して、病院等の指導が足りず、分からない。困った。という母親からの声が多く届いている。家族も含めて母乳について理解していることが母乳育児の推進に繋がる。また、当地域では母乳育児についての情報がほとんどなく、理解のないまま、母乳をあきらめミルクでの育児に切り替える方も多い。

■課題② 母親の孤立化

【現状】

新型コロナ感染防止のため子育て支援室は現在、利用人数を制限している。また、緊急事態宣言の要請などにより外出を控える母子が増えた。このことから子育て支援室の利用者は激減している。しかし支援室を利用しない又はできない事情は様々でも、子育てストレス、疲労、孤立等が減少しているとは考えにくく、心配である。

当地域は転勤者も多く、身近に知り合いの全くない母子も多い。高齢化が加速し、子供の数が激減している為、隣近所に子どもの姿も少なく母親同士が交流する機会も少ない。地域の保健師が電話での相談窓口を設けているが、些末な不安や疑問を解消する身近な相談窓口としては機能していない。

また、当地域には多世代同居の家庭も多く、世代間の育児知識のギャップでストレスを感じている母親も多い。

【第1期の取り組みと成果】

第1期ではベビーサロンを開催・運営したが、こういった交流の場で、母親同士が交流し、育児の多様性を知る機会ができ、安心したという声を参加者からいただいている。イベントを開催することで支援室利用の足掛かりとなり、その後の支援室利用が継続していることが多い。ベビーサロン利用で知り合い、その後母親同士の交流を続けている方もいる。

その他、地域のコミュニティFMで「ままラジ」という15分間のラジオ番組を持ち、週4回子育てについての様々な知識・情報を提供してきたが、コロナの感染拡大で一時支援室を閉所した際には、「ラジオを聞いています」という声を頂いた。また、地域の方々からもラジオについての感想をいただき、支援室を知る機会になっていると感じている。ラジオという新しい支援の場を持ったことで、他機関との連携も取りやすくなっている。

【課題】

少子化・コロナウィルス等の影響で、身近に知り合いがなく、頼る人もいないまま孤立して育児をする母親は依然として増えている。多くの母親はネットで育児について調べているが、様々な情報に混乱し、一方的な情報の提供により不安を募らせることもある。育児について不安を感じても、相談するほどのことではない。としり込みするため、保健師の電話相談窓口の利用は限られてしまう。当法人でも電話での相談よりも来所して相談されることが圧倒的に多い。中でも不安やトラブルの多い授乳相談は対面での専門的なアドバイスが必要であり、その場が求められている。

また、ベビーサロン参加者からは自宅での子どもとのかかわり方についての相談が多く寄せられた。自宅で過ごす時間が増えている今、母親がストレスなく、子どもとのかかわりを持つことが求められている。

■課題③ 乳幼児の防災の地域への啓蒙

【現状】

当法人は東日本大震災を機に活動を発展させた。東日本大震災の際には乳幼児に対して災害弱者という意識が低く、高齢者が優先される中、母子・妊婦は肩身の狭い思いをした。言葉のない乳幼児にとって、身近な大人の発信力は「いのち」に直結する。しかし、震災から10年以上の年月が過ぎ、令和3年度トンガ諸島の海底火山噴火の際には、津波警報が発令されたものの、避難者は少なく、住民の災害に対する意識の低下を感じている。また、子育て世代が交代していくことから、新しく子育てを始める世帯に対して継続的な防災の呼びかけを続けなくてはならない。地域においても乳幼児の防災の意識はまだ定着していない。

【第1期の取り組みと成果】

スタッフの防災ミニ講話を隔月で開催し、継続して防災についての啓蒙を行うことができた。「防災強化月間」では災害伝言ダイヤルの体験等具体的な内容に母親たちから防災をリアルに感じる事ができた。と満足の声を頂いている。さらに、強化月間開催中に地震が起き、より実感を持った学びの場となった。作成した防災パンフレッ

トには大船渡市の情報も掲載し、地域に密着したパンフレットとなった。

【課題】

「乳幼児の防災」に何が 필요한のか。当法人は震災以降、講話や講演会などを開催して子育て世代に啓蒙を続けている。しかし子育て世代は常に更新していくため、地域自体に「乳幼児の防災」の意識を根付かせ、いざという時に誰でもが手を指し伸ばすことのできる環境づくりをする必要がある。また大船渡市の公共の備蓄量では、各家庭で自助の意識を持つ必要があることが分かった。震災が頻発する今、より強く、自助の意識造成をしていかななくてはならない。そして、更に強く防災意識を啓蒙していくためにスタッフが専門的な知識を身に着け、より主体的に防災に取り組んでいく必要がある。

●パートナー協働プログラム対象事業

コンポーネント①妊娠期からつなぐ子育て支援事業

【場所】 大船渡市子育て支援センター「すくすくルーム」と福祉の里センター

①「マタニティスクール」 担当：助産師

対象：妊婦とご家族

毎月第2日曜日 2回制

内容 10:00～12:00 沐浴演習と産後について

13:00～15:00 母乳とお産の話

令和3年度のマタニティスクールでは沐浴指導がメインとなり、出産や育児についてお話しする時間があまりにも足りていなかった。出産と育児について学び、安心して取り組めるよう学びの時間を増やしてプログラムを提供する。

- ・育児についてゆったりと学び演習することで母性や父性を育む
- ・産前産後の不安や心配を助産師が具体的に身近に解消する
- ・家族全員で母親をサポートできるように支援する
- ・産前産後、育児について正しい知識を得ることで主体的に出産できるよう促す
- ・妊娠期に子育て支援室を訪れることで、出産後の育児期間にいつでも支援室を頼ることができるようつなげる。

②産後ケア(前年度未実施事業・6月より開始) 担当：助産師

対象：産後5か月未満の母子

毎月第3水曜日 10:00～15:00

場所：福祉の里センター

現在当法人は大船渡市と連携して、月に一回の産後ケアを実施している。しかし対象者が限定され、周知もされないため、産後ケアの必要性が地域に認識されていない。しかし、出産後多くの女性はホルモンバランスが崩れ、メンタルが落ち込みやすく不安定になる。母親の睡眠不足や情緒の不安定・育児に関する不安を解消するために、助産師とスタッフが一日母子に寄り添ってケアをする。

- ・母親の話を傾聴し、気持ちに寄り添う

- ・赤ちゃんを別室で預かり十分な休息をとってもらおう
- ・育児の不安や疑問を解決する
- ・授乳トラブルを解消する
- ・地域に産後ケアの必要性を広め、母親へのサポートの必要性を理解してもらおう

③産後ドゥーラの資格取得（前年度未実施事業）

コロナウィルス感染拡大の影響を受けて、前期で予定していたドゥーラ資格の取得は東京での研修参加が難しく、延期せざるをえなかった。しかし、今後の産後ケア事業の展開を考えると、スタッフのドゥーラ資格取得を再度目指す。

現在当法人は市と連携した産後ケアを実施しているが、産後で疲弊している、あるいは兄弟がいる、といった母親は産後ケアを受けるために外出すること自体がハードルになるとわかった。今後は当地域においても訪問による産後ケアが必要になると考え、その事業展開のために資格取得を目指したい。また、現在実施している産後ケアにおいても産後ドゥーラについて学ぶことは大いに活かされる。

- ・産後ケアに携わるスタッフの育成
- ・地域のニーズを拾い、今後の事業展開をする

④「ベビーサロン&授乳相談」 担当：助産師 保育士 育児スタッフ

対象：生後2ヶ月～1才までの母子

毎月2回 10:00～12:00

内容 育児相談・母親の交流促進・手遊び・体重測定・ハンドマッサージ 等

令和3年度のベビーサロンでは母親同士の交流ができた。と大変喜ばれているが、コロナの影響で利用制限がされており、裨益者数は限られてしまう。また、授乳について不安を抱えている母子も多く、授乳トラブルはいつでも起こりうる。助産師の参加するベビーサロンの回数を増やし、併せて授乳相談の窓口を設けることで、一人でも多くの母親の不安を解消したい。

- ・母親同士のつながりを作り、孤立化を防ぐ
- ・母子のふれあいを深め、母親のストレスを軽減する
- ・個々の育児を尊重し、相談事は傾聴を中心に対応して育児の不安を未然に防ぐ
- ・母乳トラブルに迅速に対応できるよう助産師の授乳相談も行き、随時対応する

⑤「授乳のお話会」 担当：助産師

対象：妊婦から育児中のママ

年3回 10:00～12:00

震災時母乳で育児をすることは大変有効である。しかし当地域では、母乳について学ぶ機会がないため、母乳育児に積極的に取り組まず、母乳が分泌されなくなる母親も多い。母乳育児をするためには赤ちゃんに母乳を吸わせることが何より大切であり、その姿勢を形成するためには母親や家族が母乳の大切さを理解することが必要だ。

- ・母乳育児の正しい知識を広め、母乳育児を推進する

⑥遠野のわらべ歌支援者研修

対象：1歳未満の母子5組・すくすくルームスタッフ
年2回（10.1月）

10:00～11:30 赤ちゃん向け遠野のわらべ歌講座

13:00～15:30 支援者向け遠野のわらべ歌講座

支援室で、母親たちは赤ちゃんとのかかわり方がわからない。という不安を口にする。世代間で行われていた育児の知恵の伝承がされず、ネットなどのうわべの知識で育児をしている母親が多いと感じている。岩手県遠野市に残されている「遠野のわらべ歌」はただの遊び歌ではなく、子どもを育てていく上での大切な知恵の伝承である。このスキルを地域に広め、またスタッフが身につけ、よりよい子育て支援につなげたい。そして母親たちに育児の楽しさをより深く感じてほしい。

- ・赤ちゃんへの語り掛けについて学び支援に生かしていく

⑦FMねまらいん（大船渡市公設民営のコミュニテイ FM放送局）「ままラジ」放送

対象：子育て世代及び大船渡市民

週4回

月曜：手遊び

火曜：管理栄養士の季節離乳食・図書館おすすめ絵本紹介・防災士の乳幼児の防災

地域で活躍する方や施設と連携して定期的に情報を更新して届ける

水曜：大船渡市内の子育て支援室の紹介・イベント紹介

木曜：遠野のわらべうた 毎月更新して地域への周知を進める

これってどうなの？ 支援室で取り上げられる子育ての疑問や不安について

その他 童謡の紹介 ママからの投稿 リクエスト曲 など

令和3年度のままラジの放送では、母親だけではなく地域の方々から感想をいただいた。ラジオ放送の利点は地域に対しても子育てについて発信できることだということが分かり、その可能性を活用していきたいと考えている。また、依然として支援室の利用制限が続く状況において、支援室を利用していない母親にも子育て支援情報を届けていきたい。

- ・支援室を利用していない母子にも子育て情報を届ける
- ・子育て支援室の雰囲気を知ってもらい支援室の利用につなげる
- ・子育て世代だけではなく地域に住む人々に支援室の情報を届けることで、今の子育てについて知ってもらい、子育てしやすい町づくりをする

コンポーネント②乳幼児を守る防災事業

「取り組むべき課題」でも述べたとおり、住民の災害に対する意識の低下を感じている。また、新しく子育てを始める世帯に対しての継続的な呼びかけも必要であるため、前期で防災士の資格取得を予定していたが、コロナウィルス感染拡大のため、県外で

の研修の参加が難しく延期せざるを得なくなった。しかし、より主体的、積極的に「乳幼児の防災」に取り組んでいく必要があることに変わりはないため、スタッフの専門的な知識を深めるため、再度防災士の資格取得を目指したい。そのうえで、防災講話などのイベントをより深い内容に更新して開催していく。

① 防災士の資格取得（前年度未実施事業）

- ・今後「乳幼児の防災」啓蒙を推進するために、専門的な知識を持ったスタッフを育成する。

② 防災ミニ講話

対象：未就学児とご家族

隔月開催 10:30～11:00

- ・こそだてシップが今までに取り組んできた乳幼児の防災事業の中で、スタッフが身につけた知識を利用者にお話し、各家庭の自助につなげる

③ 震災体験の記録

- ・震災時にどのような避難経験をしたのか、経験者へのインタビューを映像に残し、防災強化月間等で上映する。
- ・東日本大震災時の母子のリアルな非難の様子を知ってもらうことで、地震の防災意識を高めてもらいたい。

【今後の活動計画】

当法人は大船渡市から委託を受けて子育て支援室の運営を行っている。シビックフォースとの協同事業では、地域の課題をより解決する支援を今後行っていくための準備（初期投資）を行う。今年度の共同事業で準備を進めた各事業を次年度以降は支援室運営の中で開催していく。

コンポーネント①

- ・現在は月1回ハイリスク産婦のみを対象とした産後ケアを大船渡市から委託されているが、本事業の実績を市に報告し、希望する産婦全員が市の補助を受けて産後ケアを受けることができるよう行政に働きかけていく。
- ・今年度は産後サポートに長く携わっている北上市の助産師や東京の助産師を招いて各事業のプログラムを確立し、そのスキルを学ぶ。その後、市内の看護師を雇用し人件費のコストを抑えたいうで事業を実施していく。
- ・産後ドゥーラの資格を取得し、2024年度から実施を予定している子育て家事支援制度の委託を受けることを目指す
- ・ラジオ放送は、地元のラジオ局が子育て支援番組の意義を理解してくれたため、放送料が免除となった。放送を継続していくために今年度はラジオの認知度を高めスポンサーを見つけ、制作にかかっている費用を捻出したい。

コンポーネント②

- ・防災士の専門的な知識を踏まえた「乳幼児の防災」の再構築と発信
- ・「震災体験の記録」を伝承し継続的に視聴してもらう

	<p>●期待される効果</p> <p>コンポーネント①妊娠期からつなぐ子育て支援事業</p> <p>前期で実施した事業をさらに「母乳育児」や「赤ちゃんとのかかわり方」など、ニーズに合わせた形で実施することで、当地域の母親が安心して出産育児に取り組めるようにサポートする。出産や育児について妊娠期から家族で正しい知識をもってもらい、母親の不安を軽減する。また、育児について不安を抱いたときにいつでも頼ることができるよう、妊娠期から子育て支援室とのつながりを持つ。そのことが産後うつや育児ストレスの軽減につながる。</p> <p>コンポーネント②乳幼児を守る防災事業</p> <p>東日本大震災から10年以上の時間が流れ、地域の防災意識が低下している中で、東日本大震災で得た教訓を次の世代につなげることで、各家庭の防災意識をより具体的なものとしてはぐくむ。防災において自助の大切さが説かれている今、地域に「乳幼児の防災」の意識をはぐくみ、有事の際の母子の一助となる地域づくりを進める。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人) (コロナ感染下で限定的)
<p><u>コンポーネント①妊娠期からつなぐ子育て支援事業</u></p> <p>1) 「マタニティスクール」の開催 (毎月第2日曜日 2回制)</p> <p>2) 産後ケア (毎月第3水曜日)</p> <p>3) 産後ドゥーラの資格取得</p> <p>4) 「ベビーサロン&授乳相談」(毎月2回)</p> <p>5) 「授乳のお話会」(年3回)</p> <p>6) 遠野のわらべ歌支援者研修 (年2回)</p> <p>7) FMねまらいん (大船渡市公設民営のコミュニティFM放送局)「ままラジ」放送 (週4回/月曜日～木曜日)</p> <p><u>コンポーネント②乳幼児を守る防災事業</u></p> <p>1) 防災士の資格取得</p> <p>2) 防災ミニ講話 (隔月開催)</p> <p>3) 震災体験の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市内の妊婦・母子 ・気仙管内地域と行政 ・気仙管内子育て関連施設 ・大船渡病院 <p style="text-align: right;">1,000人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙管内地域住民 ・当支援室利用者 ・気仙管内子育て支援施設 ・気仙管内行政 ・気仙管内防災関連機関 ・大船渡市民 等 <p style="text-align: right;">1,000人</p>